

保存版

赤ちゃんの症状からわかる

病気ガイド

Vol.150 目の様子が気になる

赤ちゃんの大切な「目」。どんな小さなトラブルからも、守ってあげたいですね。赤ちゃんの目のトラブルは、放置すると重症化することもあるので、赤ちゃんの目をチェックするときに気をつけること、受診の目安など、いざというときのポイントを確認しておきましょう。

教えていただいた先生



泉田美穂先生
(汐入眼科クリニック 院長)

聖マリアンナ医科大学卒業後、昭和大学眼科科学教室入局。昭和大学横浜市北部病院などを経て、2011年に現職。眼科専門医。8才と6才の女の子のママ。

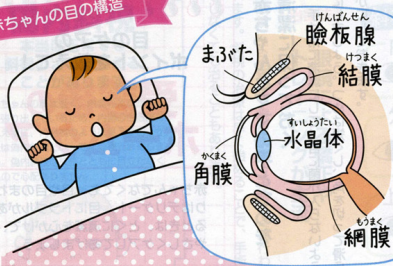
泉田先生からママへ

赤ちゃんの目のトラブルは
眼科専門医に相談してみて

赤ちゃんによく見られる目のトラブルには目やにや充血、斜視などがありますが、症状の程度はさまざまです。そのまま様子を見ていいものもある、治療が必要なケースもあります。けれど、たとえ小さなトラブルでも、ママやパパには心配ですね。気がかりは、1人で抱えているとつらいもの。目の様子が気になることがあれば、気軽に眼科専門医に相談してください。



赤ちゃんの目の構造



大人と同じ構造になっています。けれど、脳の視覚中枢や網膜の中心になる細胞は発達途上のため、目の前で動くものがすかすかにわかるもの、明るいか暗いかくらくしかりません。

生まれたばかりの赤ちゃんの視力は0・01ほど

ママが
知っておきたい
赤ちゃんの
目のこと

赤ちゃんの目は、大人の目とどんなところが違うのでしょうか。構造や視力がどうなっているのか、基本を知っておきましょう。

赤ちゃんの視力は
成長とともに発達します

1カ月ごろになると物の形がわかるようになり、3カ月ごろからはママの顔や足りた色のおもちゃに反応するようになります。4カ月ごろには眼球を動かして、動いているものを目で追えるようになります。1才になると、0.3くらいの視力が確認できています。8才ごろには大人とほぼ同じ視力。視力は、毎日いろいろなものを見せることで発達していきます。目に刺激をたくさん与えることで、脳が刺激され、視力も成長していくのです。

目のトラブルは早めに
解決することがポイントです

赤ちゃんの目のトラブルには、治療しないと視力の発達に影響を及ぼす場合があります。たとえば結膜炎といった細菌感染による病気が、赤ちゃんのこじかかっても視力には関係ありません。しかし、斜視(向かを見る)などに左右どちらかの視線がずれているなどは、今後の視力や視覚の発達と大きな関係があります。目の様子で気がなることがあれば、早めに眼科を受診しましょう。

